

Level 8-9

2014年度 第2回

問題用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。

まず、下記の注意をよく読んでください。

●検定上の注意●

1. 検定時間は 60 分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげてかんとくしゃ監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

会場番号

受検番号

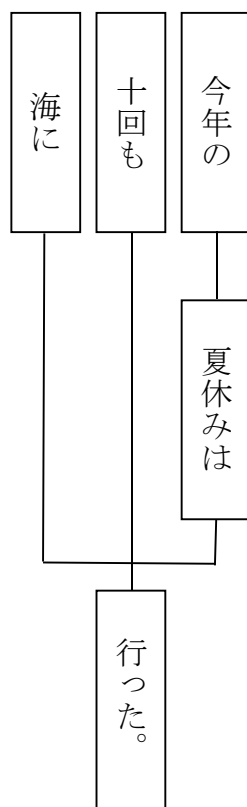
氏名

問題 I 次の問いに答えなさい。

第一問

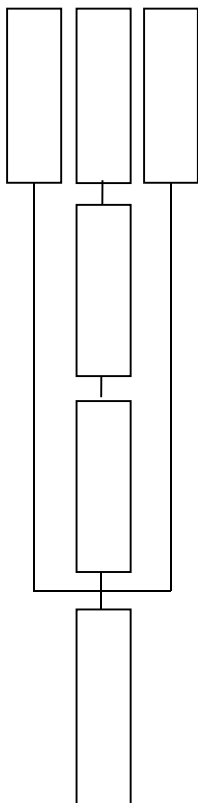
次の文章は、後の構造図のどれに当たるか。例にならって、最もふさわしい図を、次のア～オの中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

【例】今年の 夏休みは 十回も 海に 行った。

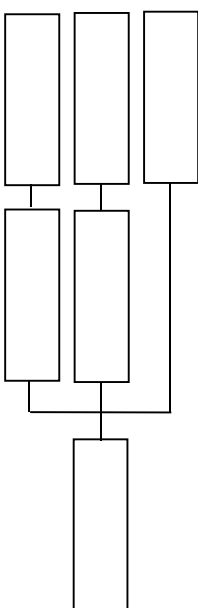


- (1) 今朝 大型 台風が 日本 列島を 縦断した。
- (2) 美しい 白い 花が あの人の 心に 咲いた。
- (3) 私は 今日の 国語の 授業中に ぐっすりと 居眠りしてしまった。

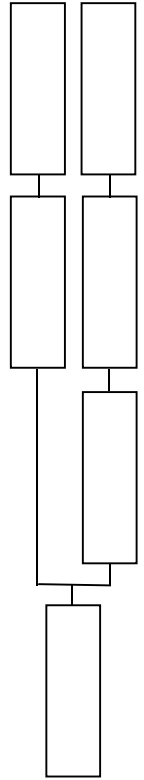
ア



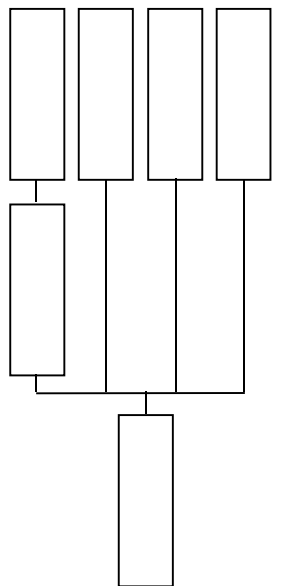
イ



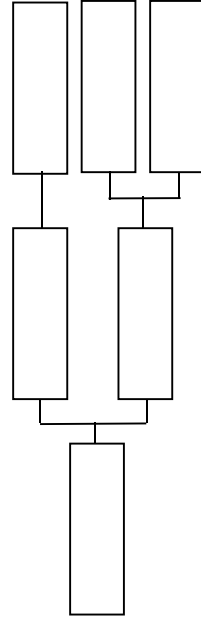
ウ



エ



オ



第二問

——線部の何かとは何なのか、本文より抜き出しなさい。

「ではみなさんは、そういうふう川だと言われたり、乳の流れたあとだと言われたりしていたこのぼんやりと白
 いものがほんとうは何かご承知ですか。」先生は、黒板に吊つるした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀
 河帯のようなところを指しながら、みんなに問をかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四五人手をあげました。ジヨバンニも手をあげようとして、急いでその
 ままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、このごろはジヨバンニはまるで毎
 日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちがあるの
 でした。

みやざわ けんじ
 宮沢 賢治 「銀河鉄道の夜」

第三問

——線部が指しているものを抜き出さない。

一時間の後、代助は大きな黒い眼を開いた。その眼は、しばらくの間一つ所に留まって全く動かなかつた。手も足も寝ていた時の姿勢を少しも崩さずに、まるで死人のそれの様であつた。

夏目漱石 「それから」

第四問

次の文章の（ ）に入る接続語を a) f)の中から選び、さらにその説明として最も適切なものを、後のア) カ)の中から選びなさい。

日和見主義者とは自分でものを考えず、ひよりみ絶えず世の流れを観察しているものたちのことである。

(1) 世の流れは思想によつて決まるのではない。(2) 世の中の上層部で権力闘争があり、思想は権力欲を正当化する手段に過ぎないからである。

世の中を危険な状態におとしこ陥れているのは、この日和見主義者たちである。

(3) 政権が安定している時は、日和見は勝ち馬に乘ろうとするから、権力者は思いのまま自分の欲望を満たすことができる。独裁政権がたんじよう誕生するのは、この時である。

一方、権力バランスがどちらかに傾いた時、日和見主義者たちはいっせい一斉に世の流れに乗つかろうとする。その結果、

世の中は大変な混乱に陥おちいってしまふ。フランス革命でも、中国やロシアの革命でも、その後に大量虐殺ぎやくさつが起こつたではないか。

(4) 私たちは今こそ日和見主義を拒否きよひし、自分の頭で考えることを始めなければならない。

【接続語】

- a なぜなら b ところで c しかも d しかし
e だから f たとえば

【説明】

- ア 空所前文の理由が、空所後文となっている。
イ 空所後文の原因が、空所前文となっている。
ウ 空所前文を前提に、空所後文を付け加えている。
エ 具体例を提示する。
オ 改めて説を起すとき、文頭に用いる。
カ 空所前文の話の流れをひっくり返している。

第五問

次の(1)～(5)の文には、いずれも表現上適切でないところがあります。その理由を、それぞれ後のア～カの中から一つずつ選びなさい。

- (1) 情けは人のためならずで、同情は禁物である。
- (2) 私はなきながら飛んでいく鳥を見た。
- (3) 早く書こうと、字が間違えてしまった。
- (4) 彼女が言いたいのは、もっと努力するべきだ。
- (5) テスト用紙を手分けして各列ごとに配って下さい。

ア 言葉のつながりが間違っている。まちが

イ 同じ意味の言葉が二度使われている。

ウ 慣用句の使い方が間違っている。

エ 文の意味が二通りに読み取れる。

オ 文全体の主語と述語の関係が間違っている。

カ 助詞の使い方が間違っている。

問題Ⅱ 次の文章は、梶井基次郎「※ 篋の話」という作品です。文章を読み、後の問いに答えなさい。

A 私は散歩に出るのに二つの路を持っていた。一つは溪に沿った街道で、もう一つは街道の傍から溪に懸った吊橋を渡って入ってゆく山径だった。街道は展望を持っていたがそんな道の性質として気が散り易かった。それに比べて山径の方は（1）ではあったが心を静かにした。どちらへ出るかはその日その日の気持が決めた。

しかし、いま私の話は静かな山径の方をえらばなければならない。

吊橋を渡ったところから径は杉林のなかへ入ってゆく。杉の梢が日を遮り、この径にはいつも冷たい湿っぽさがあった。ゴチック建築のなかを辿ってゆくときのような、ひしひしと迫って来る静寂と孤独とが感じられた。私の眼はひとりで下へ落ちた。径の傍らには種々の実生や蘚苔、羊歯の類がはえていた。この径ではそういった矮小な自然がなんとなく親しく——彼らが（2）な会話をはじめのお伽噺のなかでのように、眺められた。また径の縁には赤土の露出が雨滴にたたかれて、ちようど風化作用に骨立った岩石そっくりの恰好になっているところがあった。その削り立った峰の頂にはみな一つ宛小石が載っていた。ここへは、しかし、日がまったく射して来ないのでなかった。梢の隙間を洩れて来る日光が、径のそここや杉の幹へ、蟬燭で照らしたような弱い日なたを作っていた。歩いてゆく私の頭の影や肩先の影が①そんななかへ現われては消えた。なかには「まさかこれまでが」と思うほど淡いのが草の葉などに染まっていた。試しに杖をあげて見るとささくれまでがはつきりと写った。

B この径を知ってから間もなくの頃、ある期待のために心を緊張させながら、私はこの静けさのなかにしばしば歩いた。私が目ざしてゆくのは杉林の間からいつも氷室から来るような冷気が径へ通っているとところだった。一本の古びた筧がその奥の小暗いなかからおりて来ていた。耳を澄まして聴くと、幽かなせせらぎの音がそのなかにきこえた。私の期待はその水音だった。

どうしたわけで私の心がそんなものに惹きつけられるのか。心がわけても静かだったある日、それを聞き澄ましていた私の耳がふとそのなかに不思議な魅惑がこもっているのを知ったのである。その後追いおいに気づいていったことなのであるが、この美しい水音を聴いていると、その辺りの風景のなかに変な錯誤が感じられて来るのであった。香もなく花も貧しいのぎ蘭がそのところどころに生えているばかりで、杉の根方はどこも暗く湿っぽかった。そして筧といえばやはりあたりと一帯の古び朽ちたものをその間に横たえているに過ぎないのだった。「②そのなかからだ」と私の理性が信じていても、澄み透った水音にしばらく耳を傾けていると、聴覚と視覚との統一はすぐばらばらになってしまつて、変な(3)の感じとともに、訝かしい魅惑が私の心を充たして来るのだった。草むらの緑とまぎれやすいその青は不思議な惑わしを持っている。私はそれを、露草の花が青空や海と共通の色を持っているところから起る一種の錯覚だと快く信じているのであるが、見えない水音の醸し出す魅惑はそれにどこか似通っていた。

C すばしこく枝移りする小鳥のような不定さは私をいらだたせた。蜃気楼のようなはかなさは私を切なくした。そして深秘はだんだん深まつてゆくのだった。私に課せられている暗鬱な周囲のなかで、やがてそれは幻聴のように鳴りは

じめた。束の間の閃光せんこうが私の生命を輝かがやかす。そのたび私はあつあつと思った。それは、しかし、(4)の生命に眩惑げんわくされるためではなかった。私は深い絶望をまのあたりに見なければならなかったのである。何という錯誤だろう！私は物体が二つに見える酔っ払いよぼらのように、同じ現実から二つの表象を見なければならなかったのだ。しかもその一方は理想の光に輝かされ、もう一方は暗黒の(5)を背負っていた。そして③それらは私がはつきりと見ようとする途端とたん一つに重なって、またもとの退屈たいくつな現実に戻ってしまうのだった。

D 笈は雨がしばらく降らないと水が涸かれてしまう。また私の耳も日によつてはまるつきり無感覚のことがあった。そして花の盛りが過ぎてゆくと同じように、いつの頃からか笈にはその深秘がなくなってしまう、私ももうその傍にたたず佇むことをしなくなった。しかし私はこの山径を散歩しそこを通りかかるたびに自分の宿命について次のようなことを考えないではいられなかった。

「④課せられているのは永遠の退屈だ。生の幻影げんえいは絶望と重なっている」

※ 笈：地上にかけ渡して水を導く、竹や木の樋と。かけどい。

第一問 (1) (5)に入る言葉を、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 絶望 イ 陰湿いんしつ ウ 陰気いんき エ 無限 オ 錯誤さくご

第二問 次の一文を段落Bの元の位置に戻し、その直後の五字を抜き出しなさい。(句読点を含む。)

私はそれによく似た感情を、露草の青い花を眼にするとき経験することがある。

第三問 ——線部①・②が指している語を抜き出しなさい。

第四問 ——線部③が指しているものを五字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む。)

第五問 ——線部④の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 神秘はすべて幻影であり、「私」は絶望するしかない。

イ 永遠に退屈を課せられたために、「私」は幻影を抱くしかない。

ウ 生命はすべて幻影であり、それゆえ退屈なものである。

エ 神秘と見えたものは幻影で、「私」は退屈な人生を生きるしかない。

問題Ⅲ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の語句を並べかえたとき、不要な言葉が二つずつあります。その言葉をそれぞれ抜き出しなさい。

- (1) 抱きいだ 感慨かんがいを 私は 明日は 始めた 念を 望郷の
(2) 危惧きぐを 念ねんじる ものは 現状に 抱く 多い 現代に 日本の

第二問 次の文の——線部を変えないで、例のように表現のおかしい部分を五字で、正しい表現に書き直しなさい。

【例】 彼は最近少しも勉強する。 (答) 勉強しない。

- (1) 北海道では、毎年大雪が降りそうだ。
(2) たとえ失敗したなら、誰も君を責めはしない。

第三問 次の①の文の中に②を加えて一文を作りなさい。

- ① 私は夏目漱石なつめそうせきの「こころ」を読むのが好きである。
② 「こころ」は教科書のに載っている。

第四問 次の文章の要点を二十字以内でまとめなさい。(句読点を含む。)

あなたは道ばたに転がっている小石を真正面からじっと観察したことがあるだろうか。そのそばで生い茂っている雑草を隅から隅まで眺めたことがあるだろうか。つまり、私たちは物を見ているようで、実はほんの一部の側面しか見てはいないのである。

第五問 次の文章の要点を五十字以内でまとめなさい。(句読点を含む。)

地球を守れというスローガンが近年盛んとなり、環境保護運動が世界的規模で拡大しているが、それは決して地球環境のために自分たちを犠牲にしようとするものではない。環境を破壊しすぎたために逆に自分たちの快適な生活が危うくなったので、今度は少しばかり環境を保護しようというのである。つまり、私たちは自分たちの快適な生活のために環境を保護したり破壊したりしているにすぎないのであって、結局は利己主義の域を抜け出したものではないのである。

問題IV 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 最近のカメラやビデオなどは高性能になり、大抵は大きく見えるクローズアップと、小さく見えるフェイドアウトの機能がついています。このクローズアップとフェイドアウトという機能は、もともと人間がものを認識する際に、自然と（ a ）を行っていたのです。

たとえば、家族や恋人など、自分に近い人であればあるほどクローズアップされ、逆に自分から遠い関係にある人であれば、次第にフェイドアウトしていきます。

世界のどこかでどれだけ理不尽な出来事が起ころうとも、自分と直接関係がない場合は、さほど関心を持ってなくても非難されることはありません。私たちは遠いどこかで人が殺されようが、飢えて死のうが、自分と関係のない情報としては関心を持つかもしれません。それらに直接関わる必要などどこにもないということです。（1）、現代はニューメディアの発達により、この機能に狂いが生じてしまったのです。

B 世界中の情報が一人ひとりのパソコンの中に、瞬時に進入してきます。中近東で戦争が起こったなら、円高や円安、株価の変動、石油価格の高騰などにより、商品の価格が上がったり、日用品が手に入らなくなったり、深刻な不況となり、失業者が増えたりと、直接私たちの生活に影響を与えることになります。（2）、何が自分にとって身近な出来事なのか、誰にも分からなくなってしまうのです。

（3）、江戸時代の農民は自分の狭い周辺の（ b ）にだけ関心を持っていれば、中近東で戦争が起ころうと

関係ないことでした。(4)、現代は、自分を中心に情報を集めたり解釈したりするだけでは、生きていくことさえ困難になりました。

(5)、今度は逆にこの機能を自分でコントロールすればいいのです。世界中から押し寄せてくる膨大な情報に振り回されるから遠近法の感覚が狂ってしまうわけで、一つの現象をクローズアップさせたり、フェイドアウトさせたりと、自分の意識を自在にコントロールしていく、メタ意識が必要となってきたのです。

C それに対して、こんな考えもあります。弱肉強食の自然界の中で、生き物は殺され、食われることで、他の生き物の命の糧となる。もちろん、食事をする時に感謝の気持ち忘れてはいけませんが、たとえば、ライオンが獲物を食い殺す時、自分の行為に対して心の痛みを感じることはないではないか。

それが自然の(c)であって、人間だって例外ではない。それなのに、殺された牛や豚が可哀想だから、肉を食べることをやめようというのは、それこそ人間の思い上がりではないか、と。

D 食料とは人間が決めたことで、生き物としては、ペットと牛や豚は同じほ乳類です。それなのに、牛や豚は食料だから、彼らが殺されるといった現実を一切考えずに、毎日食べ続けても平気なのでしょうか。

その思考停止状態が、人間の傲慢さが、環境破壊や原子力の問題を引き起こしたのかもしれない。

E 私たちは自分の視点からすべてを捉えて、それに対しての是非を判断しがちです。そして、いったん価値観を固定さ

せたなら、逆にそうした固定観念に縛られて自由に思考できなくなります。

そこで、同じ現象に対して、「クローズアップ」と「フェイドアウト」を繰り返してみるのです。そうした思考訓練が、自分の狭い自我から自由になる方法の一つです。

F 私は何も肉を食べるなどと言いません。今私が述べた考え方が、クローズアップなのです。食肉の問題を、自分が飼っているペットに引きつけて、身近なところで考えたのです。

G 例を挙げましょう。私たちは当然のように牛や豚の肉を食べます。犬や猫などのペットを飼っている人は実感できると思うのですが、自分の可愛いペットの肉を食べることができるとはどうでしょうか。

牛も豚も、そして、犬や猫も、人間と同じほ乳類なのです。自分のペットを食べることはできないけれども、牛や豚の肉なら食料だから食べることができるのでしょうか。

H もちろん私たち人間は食物（d）の頂点に立ち、自分たちが食べられるかもしれないといった恐怖心をすでに喪失してしまったのですが、それでも自然の中で生きていることに変わりはありません。

こうした考えが食肉を自然の摂理として捉えた、クローズアップの発想なのです。

食肉を肯定するか否定するか、両者はまったく正反対の立場なのですが、どちらが正しいのかではなく、視点を変えれば、それぞれ自分たちの方が正しいとなります。

まさに（ X ）と言えるでしょう。

私たちは殺人を犯罪としていますが、戦争中多くの人を殺した軍人は英雄えいゆうでした。それなのに、私たちは自分の固定化された視点からものを捉え、それによって善か悪かを決めつけてしまいます。

戦争においては、必ず自分たちが正義で、相手は悪ですから、敵国の人間を殺しても許されると思ひ込んでしまいます。偏狭へんきょうなナショナリズムも、だから誤った判断をしてしまいます。

メタ意識は、クローズアップとフェイドアウトと、自由に視点を切り替かえることができます。そうした柔軟じゅうなんな思考こそ、（ e ）化したこの現代を理解することに不可欠です。

出口 汪 「使える論理力」

第一問 段落 C ー G を正しい順番に並べかえて、記号で答えなさい。

第二問 （ a ） ー （ e ） に入る言葉を、次のア ー オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 連鎖れんさ イ 多極 ウ 摂理せつり エ 調整 オ 情報

第三問

(1) () (5) に入る言葉を、次のア～オの中から選びなさい。ただし、同じ言葉を二回使う
こともありません。

ア ですから イ たとえば ウ ところが エ もはや オ さて

第四問

(X) に入る四字の慣用表現を、次の漢字を組み合わせさせて答えなさい。

一 両 悪 良 不 神 二 善

第五問

段落 H には、本来と反対の意味の言葉が入ったために論理的に間違っている箇所があります。その言葉を含む一文のはじめの五字を抜き出さない。(句読点を含む。)

問題V

次の二つの表を見て、後の問いに答えなさい。

【表1】我が国人口の推移ー全国

年次	人口 ¹⁾ (1000人)	年平均 人口増加率 (%)
昭和 45年(1970)	104,665	1.08
50年(1975)	111,940	1.35
55年(1980)	117,060	0.90
60年(1985)	121,049	0.67
平成 2年(1990)	129,611	0.42
7年(1995)	125,570	0.31
12年(2000)	126,926	0.22
17年(2005)	127,708	0.12
22年(2010)	127,479	-0.04
27年(2015)	126,266	-0.19
32年(2020)	124,107	-0.34
37年(2025)	121,136	-0.48
42年(2030)	117,580	-0.59
47年(2035)	113,602	-0.69
52年(2040)	109,938	-0.76
57年(2045)	104,960	-0.81
62年(2050)	100,599	-0.85

出典：総務省統計局「統計データ 第二章人口・世帯」

【表2】平均寿命^{じゆみょう}の年次推移

和暦	男	女
45	69.31	74.66
50	71.73	76.89
55	73.35	78.76
60	74.78	80.48
平成2	75.92	81.90
7	76.38	82.85
12	77.72	84.60
17	78.56	85.52
18	79.00	85.81
19	79.19	85.99
20	79.29	86.05
21	79.59	86.44
22	79.55	86.30
23	79.44	85.90
24	79.94	86.41
25	80.21	86.61

出典：厚生労働省「平成25年簡易生命表の概況」

第一問

平成十七年以前と以降では人口の推移がどうなっていますか。二十字以内で答えなさい。(句読点を含む。)

第二問

日本人の平均寿命^{じゆみょう}は大よそ、どのように変わってきていますか。十五字以内で答えなさい。(句読点を含む。)

第三問

平成十七年以降、日本の人口でどのような変化が起こっていると考えられますか。考えられることを「生まれてくる子ども」という言葉を使って、その理由と共に五十字以内で書きなさい。（句読点を含む。）

第四問

日本の人口がこのまま推移していけば、国家として問題が起こると予想されます。予想される問題について、「労働者」「医療費」「税収入」「高齢者」という言葉を使って五十字以内で書きなさい。（句読点を含む。）